

令和2年度

No 8 1月15日

松 籾



発行者
穴水秀人

3学期が始まりました

令和3年1月8日（金）、今季最強の大寒波が日本列島を包んでいた中、身が引き締まるほどの寒さを感じながら、3学期始業式を体育館にて挙行了しました。適度な緊張感を漂わせながら、整然と式を進めることができ、充実した3学期にしようと、改めて自分自身を奮起させる良い機会となりました。とは言うものの、新型コロナウイルスに関しては新たな局面を迎え、本県においても予断を許さない状況が続いています。これまでと同様、保護者の方々のご協力をいただきながら、感染防止対策に努めていきたいと思えます。

以下は、式の中で私が生徒たちに伝えた挨拶の概要です。

今年は丑（うし）年です。私を含め4名の先生方が年男（女）となりました。丑のイメージというと、「ゆっくり」「穏やか」などが連想されますが、昔から私たちは、農耕作業の原動力として丑を利用してきました。そう考えると、「誠実」とか「勤勉」などが当てはまります。

つまり、丑年は、すぐに結果を求めず焦らずにマイペースで歩み、今できることを怠らず大切に、結果につながることをひとつひとつ積み重ねていくことが望ましい年なのかもしれない。

とは言うものの、3年生にとっては、この3月に大きな区切りをつけるという一大事が待ち構えています。でも、広い視野で考えれば、人生80年の中での一つの節目でしかありません。今後もっと大きな節目を迎えることも十分に考えられます。慌てずにゆったりと構え、自分の力を信じて、できることを確実に積み重ねようとする3学期にしてほしいと思えます。健闘を祈ります。

次年度を考えると、3年生に限らず1、2年生にとっても、3学期はとても重要な学期となるはず。1年間をどんな年にしたいのか、じっくり考えることも大切ですね。

学院サッカーに感動しました！

1月11日（月）の夕方に、山梨県が「歓喜の渦」に包まれました。あの王者青森山田高校を破り、日本一という偉業を成し遂げたのです。更に、選手の中には、中学校卒業時にサッカーで挫折を味わい、最終的に意中ではなかった学院を選択したものが何人も在籍していることを知り、並々ならぬ努力をしたことに思いをめぐらせました。

「人間が唯一偉大であるのは、自分を超越するものと闘うからである。」こんな人生の名言を思い出しました。今ある逆境を「チャンス」ととらえ、「自分を超越するもの」との戦いに挑むのかどうかは、自分次第です。皆さんは、この偉業に何を感じましたか？